

経済学(ミクロ①)

堀田 真理

「公務員試験・資格試験対策を兼ねたミクロ経済学(1)」

0. イントロダクション

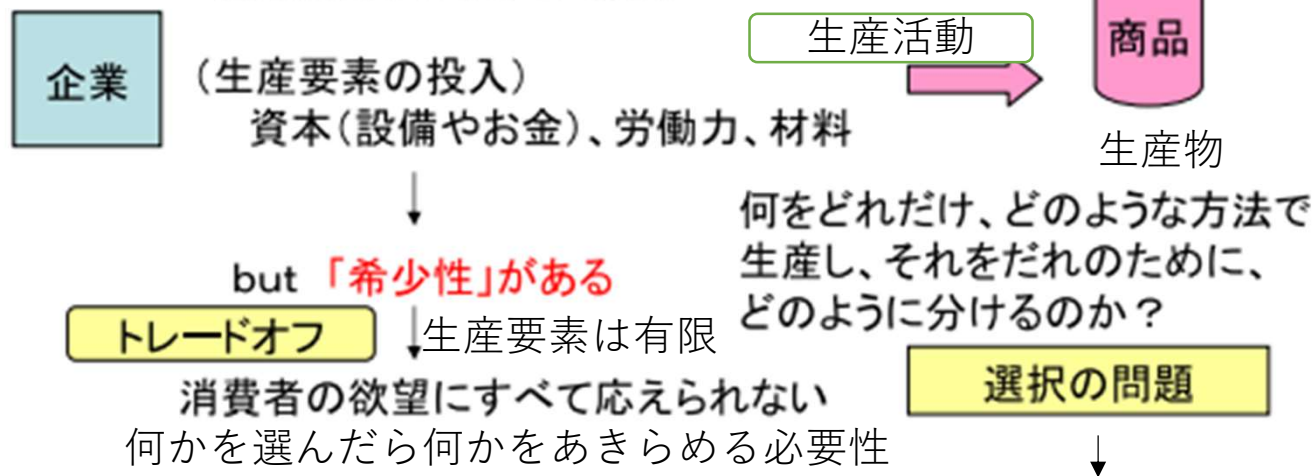
(1) 経済学の基本問題

(※)本節の(1)は、山岡・浅野(2013)「アメリカの高校生が
読んでいる 経済の教科書」を参考にしている

・ 語源 「 経世済民 」

・ 目的 「稀少資源の最適配分」 → 「希少性」と「トレードオフ」

欲望に対してそれを満たす資源が不足している (限られている)
ために、少ないものをどのように活用すれば
最も満たされるかを考える



「選択の問題」に直面しながら、最適なものを選んでいく → 経済学は「選択の学問」

(参考)

『ALLミクロ経済学』（アセモグル/レイブソン/リスト）

2020年、東洋経済新報社 より

「希少性」： 限られる資源に対して限りない欲求がある状態

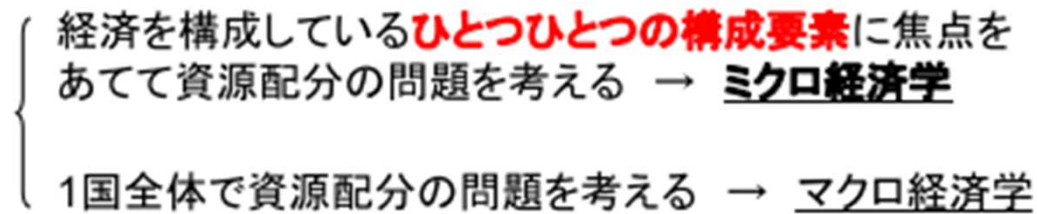
「経済学とは」： 経済主体が希少資源の配分をどう選択するのか、
またその選択が社会にどのような影響を及ぼすのかを
研究する学問

「経済主体」： 選択を行う個人、あるいは集団

※ 経済学の3つの概念

- ① () : すべてにおいて選択が必要であるがゆえに、利用できる情報をもとにしたときに、実現可能な最善の選択肢を選ぶこと
→ 実現可能な選択肢について、**便益 (Benefit)** と **費用 (Cost)** を **比較した上で、最も望ましい選択を行なう**
- ② () : だれもが同時に最適化していて、そこから行動を変えても便益を得る人がいない状態。経済システムは均衡に向かう傾向がある。
- ③ 経験主義： データを活用した分析。理論を検証したり、世の中で起きていることの要因分析を行う。

(2) 経済主体 経済の構成要素



(例) 家計の場合
限られた条件(予算制約)のもとで、最も自分が満足を得るためには、何をどれだけ買えばよいか?

- **トレードオフ**のもとでの選択の問題
- 自分にとっての **最適配分**

(3) ミクロ経済学のキーワード

① 市場メカニズム

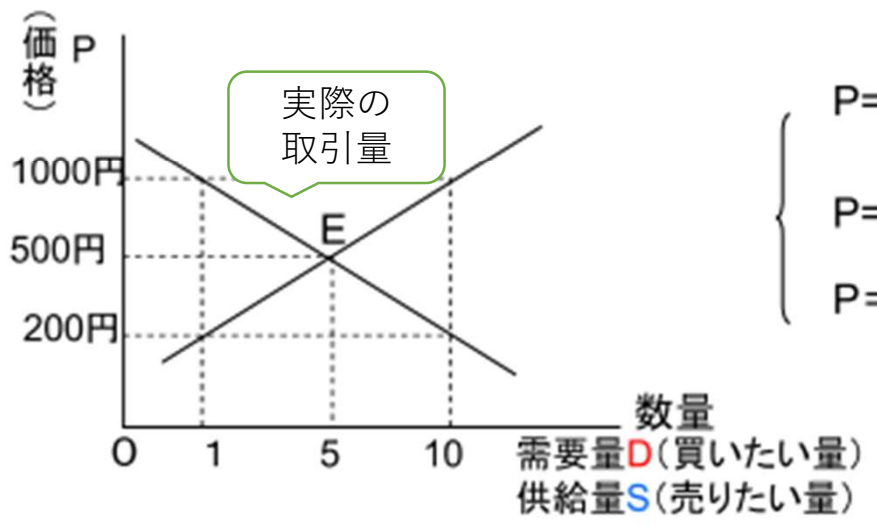
^{しじょう}
市場: 買い手と売り手が一堂に会する仮想の取引の場
売買する財の価格と量を決める仕組み

↑
もの、サービス

- 需要曲線 : 消費者の行動をあらわす
 Demand → ある価格のもとで、どれだけみんなが**買いたい**か？
 (通常は)
 - 供給曲線 : 企業の行動をあらわす
 Supply → ある価格のもとで、どれだけ**売りたい**か？
 ()
- 計画量

→ ある価格のもとで、需要量と供給量が等しくなったときに取引が成立する
 (需要曲線と供給曲線の交点)

「最適化」に基づいた
 選択の**結果**を示したものの



取引の成立

{	P=1000円の時	D:	S:	
	P= 500円の時	D:	S:	D=S=
	P=200円の時	D:	S:	

理論的な根拠から
導かれた「結果」

「最適化」についての
理論的な根拠

2年次以降

ミクロ経済学で何を学ぶのか？（本講義と「応用ミクロ」の全体像）

需要曲線 : **消費者の合理的な行動**から導かれた結論 ← **消費者理論** (2章)
予算制約下での満足最大化

供給曲線 : **生産者の合理的な行動**から導かれた結論 ← **生産者理論** (一部1章)
利潤最大化 (詳細は「応用ミクロで」)

市場全体で最終的に取引価格や取引量がどのように決定されるのか？

→ **市場均衡の理論** (1章)

市場メカニズムによると...

市場経済では、それぞれが利己的な(合理的な)行動をとっていても、
価格が調整されて、自由な取引により、効率的な資源配分が実現する

→ **前提条件** 価格所与(完全競争市場) → 現実的か？
「応用ミクロ」(例)独占

市場メカニズムだけでは説明できない場合もある → ゲーム理論

本当にいつでもうまく実現するのか？ → 「応用ミクロ」
市場の失敗 → **政府の役割** (例) 公害、公共財
(外部性の問題)

補完

② 「限界」 marginal

新たに増える1円(コ)が重要！

今いくつなのか、今の状況が重要。
それによって次の1つに対する評価
が異なってくるから。

追加的なメリット(利益) VS **追加的なコスト** で考える

(消費者) もう1つ増やすとき、
どれだけ満足度が増えるか？
効用 (Utility)

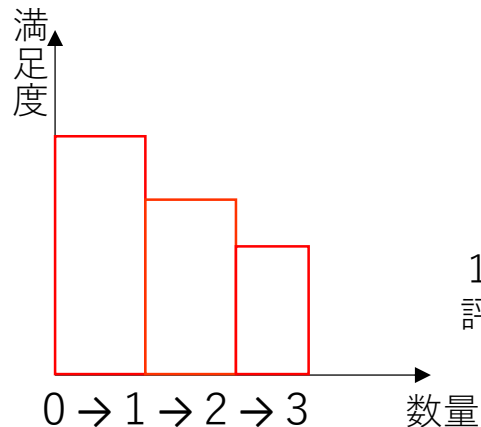
もう1つ増やすとき、
どれだけコストがかかるか？
市場価格

(企業) もう1つ生産を増やすと、
どれだけ利益が増えるか？
市場価格

もう1つ生産を増やすと、
どれだけコスト(費用)が増えるか？

つまり…
消費者と企業では立場が逆になっている

「限界」の概念は、計算上は微分を意味する



1つ増やすごとに、次のもう1つへの
評価額は下がっていく

(4) 講義内容

およそ以下のような内容を予定している。

0. イントロダクション

1. 市場の理論

- 1.1 需要
- 1.2 供給（企業の理論：限界費用と最適生産量の決定）
- 1.3 市場均衡
- 1.4 価格規制の効果
- 1.5 均衡分析 ← 問題演習 1
- 1.6 均衡分析の応用（課税の効果）
- 1.7 需要の価格弾力性

2. 家計の理論

- 2.1 無差別曲線
- 2.2 無差別曲線の性質
- 2.3 最適消費量 ← 問題演習 2
- 2.4 個別需要曲線
- 2.5 代替効果と所得効果

（第15回目 期末試験）

(5) 参考文献

「グラフィック ミクロ経済学(第2版)」

金谷貞男・吉田真理子 著 新世社 2010年 ¥2,500+税

※1 「経済学は難しい??」

→ 高校までの「政治経済」とは大きく内容がことなっている。

Point

- ・ 専門用語の意味を正確に把握する (例) 「限界」 キ 「ギリギリ」
- ・ グラフの見方に慣れる

※2 本講義では、公務員試験、中小企業診断士試験、証券アナリスト試験等の受験も考慮に入れて、問題演習を適宜、取り入れて進めていく予定である。したがって、そのために必要な数学的ツール(微分)が必要になってくるが、1年次の「基礎ミクロ」であることから、その点は適宜、補いながら進めていく。2年次の春学期開講科目である「応用ミクロ」につなげて、ミクロ経済学のほぼ全体の内容を網羅する予定である。

進め方

- ・ 毎回、pdf ファイルの「講義資料」をACE上の「コンテンツ」に掲載。
- ・ 最終授業 (15回目) に選択式20題の期末試験をオンライン上で実施予定。原則として出席は取らない。(期末試験の提出が必須条件)